

発行 安住寺（年4回発行）
臨濟宗南禪寺派
大分県杵築市大字南杵築379
〒873-0002 Tel.0978-62-2680
URL <http://www/anjyuuji.net/>
編集 矢野明玄

安住寺だより



禪の心

謹賀新年

檀信徒の皆様には、無事に新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。倍旧のご法愛をお願い申し上げますと共に、皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

平成二十五年歳旦



杵築の夜明け

- | | |
|------|-------|
| 代表責任 | 矢野明玄 |
| 役員住職 | |
| 責任役員 | 矢野玄徳 |
| 責任役員 | 土谷岩治 |
| 総代 | 綾部昇吉 |
| 総代 | 川上浩 |
| 総代 | 平野芳彦 |
| 総代 | 植木文一郎 |
| 総代 | 清末静男 |
| 総代 | 川野省三 |
| 総代 | 中村文三 |
| 合掌会長 | 是久弘子 |

この世の中は、諸行無常であります。常に移ろい、何一つとして永遠なものはありません。しかし、その一瞬一瞬の存在が全てであり、真実でもあります。存在や全ての現象に真

「禪の心」とは？

と簡単ではない。なぜなら心は常に揺れ動き平静ではない。見るもの

には、鏡のような心で居なければならぬ。

大般若・初観音

一月十七日（木）

十一時より 午後は観音講

お参りの方は十三日までにお知らせ下さい。会費は五百円。

般若札は、当日お配りします。

古いお札は、寺にお持ち下さい。新年には、新しいお札に取替えましょう。



安住寺の十六善神図

も供養し、ご加護を祈る行事です。

大般若寶牘安住寺

上のお札をお配りしますが

『牘（へどく）』とは、元々木の札のことで宝にする程有難いと言うことです。札入れに納めて丁寧におまつり下さい。特製の札入れがもう少しあります。まだの家は、是非お買い求め下さい。—代金は千円です。

大般若ってどんな行事？

年末年始は、各地の寺院や神社で厄払いと新年の吉祥を祈る行事を行います。当寺でも恒例行事として、毎年一月十七日に行っています。ご希望の檀徒の家にお札を差し上げていますが、お参りされていない方もありますので、簡単に説明します。

一切の災いが起きませんように

当日は、縁故の寺院住職に出頭して頂き、本堂には十六善神図を掛け「大般若経」六百巻を転読します。転読とは、呪文を唱えながら経本をパラパラとめくります。導師は、第五七八巻を讀みます。最後の回向文で、日本国内の八百万の神々に祈禱し更に仏祖や歴代の祖師、祖先に

新年のご挨拶

あけましておめでとうござい
ます。

安住寺檀信徒の皆様におかれ
ましては、平成二十五年癸巳の
新年をつつがなく迎えられまし
たこと、心よりお喜び申し上げ
ます。

昨年は、本山の南院国師七百
年遠諱が厳修されました。皆様
には、遠諱授戒会、南禅会館建替
え事業に御参加、御浄財を賜り
ましたこと、改めてお礼申し上
げます。



年頭よりは坐禅会【無想会】
を始めました。また、杵築市観
光協会の方と坐禅体験のツアー
を始めるなど、新たな取り組み

もできました。まだまだ参加頂
いている方は少数ですが、坐禅
を体験することにより、「禅」に
触れていただく機会ができたこ
とは幸いに思っております。

また、私事ではあります、
双子の男児を授かり、子育てに
奮闘しているところでもありま
す。誕生に際し、物心両面でお
氣遣いくださいました方々に、
紙面をお借りして、改めてお礼
申し上げます。

帰り来るを立ちて待てる

に季（とき）のなく岸と

ふ文字を歳時記に見ず

この歌は、平成二十四年の歌
会始で、美智子皇后陛下の詠ま
れた歌です。

（大津波に呑み込まれ、二度
と帰ることの無いであろう、
大切な人。歳時記に「岸」
という季語はないことから、

春夏秋冬季節を問わず、長
い時間、あちこちの岸辺で
誰かの帰りを待ち、佇む人
の姿に思いを馳せてお詠み
になられた歌。）



杵築城から望む守江湾

平成二十四年は、復興元年と
して、東日本大震災からの立ち
直りを最優先に取り組む年であ
りました。被災者のことを思い、
どれだけ前進できたでしょう。
景気も政治も低迷し、被災し
た方でもなくとも、希望の持てる

将来像は描きにくくなっていま
す。若い世代では特にそうでは
ないでしょうか。

年末の衆議院選挙を受け、新
たな政権となったわけですが、
何時までも離合集散を繰り返し、
権力争いに明け暮れるのでなく、
しっかり被災者に、国民に目を
向けて欲しいものです。

私たちも、大震災の記憶を風
化させることなく、祈りの氣持
ちを持ち続けることが大切です。

南禅寺管長・中村文峰老師に、
修行時代よく言われた言葉に

かっぱばっち

「活潑潑地」があります。（ピ
ンピン活発な。闊達自在。元氣
な様子。）といった意味でありま
す。

平成二十五年も地に足をつけ
ながら「活潑潑地」に精進して
いきたいと思います。

何卒、本年も檀信徒の皆様方
の御指導ご鞭撻、ご法愛を賜り
ますようお願い申し上げます。

明玄合掌

南禅会本部

男子研修会報告

平成二十四年十月十六日〜十八日の二泊三日の日程で、南禅寺派の檀信徒から四十九名が参加し、研修が行われました。



新しくなった南禅会館を会場

に開催されました研修には、当山より高橋勝司さんと、清末陽一さんに参加いただきました。

研修内容は、法話、坐禅、作務、御詠歌、写経、灯明会と盛りだくさんでしたが、戻られませんでした高橋さん清末さんから、充実した研修でしたと報告を頂きました。

お忙しい中、研修に御参加いただきましたまして、ありがとうございます。

今年の干支色紙

巳(蛇)年生まれの方には、たいそう申し訳ないが、わたくし、蛇が大の苦手。姿を見ようものなら、背筋がぞっとする。

また、こんな故事もありますねえ。

「客孟の弓影蛇疑を生ず」

これは、『晋書・楽広伝』にある故事です。

晋の時代、河南の長官で楽広という人物がいた。その友人が楽広の部屋で酒を飲んでいたら

き、杯に映った影を見て蛇と思い込み、その酒を飲んだことを気にして病気になった。

それを聞いた楽広が友人に「それは蛇ではなく、弓の影が映っていただけだ」と言うと、たちまち病気が治ったという。

疑いをもてば、なんでもないことにも神経を悩ますということです。

疑心暗鬼になって気を病むような一年になりませぬように。いやいや、いい例えでなく失礼しました。



蛇は弁才(財)天の使者、化身とされ、信仰を集めています。弁才天は、美と智慧と音楽の神として知られ、お金を増やして

くれる神でもあるのです。色紙には、寿山福海と讃をしました。今年一年の安泰と、皆様の長寿と福多きことを、心から祈念致しております。

福の神来る!?

紙面が埋まらないと、もがいていた十二月十九日。坐禅体験ツアーに「どうしても」と若い女性二人が来山。

一時間しっかり、坐られました。例えば、社団法人「ツーリズムおおいだ」にお勤めの、荒川さんと末松さん。

休日に杵築観光を実地体験! 中でも坐禅に惹かれたそうです。昨年最後の体験者なので記事にさせていただきました。(了解済みです。)



ふく〜びったり埋まった〜。

平成二十五年
年回忌表

年回忌仏事は、故人を偲び、敬い、つなぐ「いのち」を再確認する意深き行事です。兄弟や親戚との絆を深めるに致しましょう。

年回忌 没年

一周忌・平成二十四年
三回忌・平成二十三年
七回忌・平成十九年
十三回忌・平成十三年
十七回忌・平成九年
二十五回忌・平成元年
三十三回忌・昭和五十六年
五十回忌・昭和三十九年



色紙プレゼント

廣石碩田先生より頂戴しました。
ご希望の方はお申込み下さい。

24年11月27日 奉仕作業

合掌会行事

会員による奉仕作業がありました。寒い日になりましたが、本堂・観音堂・位牌堂などの拭き掃除に精を出して頂きました。お勤めを休んでまでのご奉仕に感謝申し上げます。参加下さった会員は、次の方々です。
是久弘子、是久妙、生駒ツヤヨ、松川ミヨ子、須賀トヨ子、立花公美子、橋本節子、河野由美子、手嶋幸恵、安邊政子、藤原京子、霜節子、下原延子、宗田ひろみ

恒例になり
ました合掌会



開山様の「おみゆき」までしました

加藤百合子、高橋麗子、須賀やよい、江口幸子、小川文子、松浦みどり、木付朱美、木付良子、吉田久美子、古田美恵子、藤原優菅、渡

寺の行事に参加しよう

平成二十五年が始まりました。事始に、寺の行事にもっと参加して欲しいと、期待を込めてお願い致します。特に寺に近い人は、恵まれていると思っで参加して下さい。何事も若い内ですヨ。
今年も年間行事の他に、早朝坐禅や写経、独秀流御詠歌・観音講を毎月行います。
昨年は、月二回の坐禅会に五人が九名です。観音講は、ご詠歌の会員が六名位残ってお勤めをして

辺友子、阿部和加子、廣石洋子、宇都宮勝子、麻生弘美（敬称略）
ご協力ありがとうございました。

行事予定

安住寺 一〜三月

一月三日	役員年始会
一月八日	独秀流御詠歌
一月十二日	早朝坐禅会
一月十七日	大般若・観音講
一月二十三日	写経・写仏の会
二月六日	独秀流御詠歌
二月九日	早朝坐禅会
二月十八日	御詠歌・観音講
二月二十二日	写経・写仏の会
二月二十三日	早朝坐禅会
三月七日	独秀流御詠歌
三月九日	早朝坐禅会
三月十八日	御詠歌・観音講
三月二十二日	写経・写仏の会
三月二十三日	早朝坐禅会

都合により変更することもあります

呉れています。続けることが修行ですが、チヨット覗いてみるだけ、一回だけでも結構です。禅の宗旨や仏教の教えを学ぶことが出来る機会でもあると思います。それと後のお茶タイムが何よりの楽しみのようです。参加をお待ちしています。